

オランダの養豚と家畜衛生事情 (要約)

エリック・ラウリドセン (オランダ ミート ボード)
Lauridsen, E. (1993). Pig Raising and the Hygiene Current in the Netherlands. *Proc. Jpn. Pig Vet. Soc.*, 23 : 18.

オランダの人口は1500万人であり、この数はオランダの飼養頭数の1400万頭とほぼ一致している。生体として輸出される豚は、子豚と肉豚がそれぞれ半々である。生産された豚肉の7割(100万トン)は、チルド状態で主としてヨーロッパ諸国に輸出されてきたが、1992年末より、日本への輸出も始まった。

1. スタムブック組合による豚の管理

当組合(登録協会)はオランダ最大の養豚組合組織で、約1万人の養豚家と約300戸の中核ブリーダーが加盟している。生産された全ての豚には、個体番号が付けられコンピューターにより登録管理されている。最近では、母豚の識別に小さなトランスポンダー(応答機)を耳に埋め込み、繁殖・育種成績が管理されている。

2. IKBシステムによる豚肉の品質管理

このシステムは1992年、国際市場での品質保証を計るために導入され、衛生、残留及び薬剤の使用等を監視、指導している。このシステムの実行は、PVV(オランダ食肉畜産品公社)が中心となっており、規則遵守の指導、監督及び制裁権をもって、品質管理にあっている。

3. トランスポンダーによる全生産豚の個体管理

生産された全ての豚を個体管理するため、某食肉センターとオランダ・テキサスインストルメント社は、トランスポンダーによる個体データ収集法を開発した。生後3～5週齢の子豚の耳にトランスポンダーを埋め込み、経時的な体重測定値、歩留まり、肉の品質等のデータが、豚の個体毎に自動的に管理される。某農場の子豚5000頭にトランスポンダーを埋め込んだところ、それが出荷時に喪失していた豚は0.8%に過ぎず、トランスポンダーの完全な普及化が計られつつある。

4. 家畜衛生

主な疾病は、豚胸膜肺炎、PRRS、オーエスキー病であった。豚胸膜肺炎は出血性肺炎を示し、死亡率が高く、オランダでは血清2型と9型が確認されている。PRRSはオランダのレリスタットにある中央獣医研究所(DLO)で原因ウイルス・レリスタットウイルスが発見された。オーエスキー病に関しては1977年以

来、オランダのほとんど全ての種豚にワクチンが接種され、現在では、本疾病による被害はほとんど無くなっている。オーエスキー病は、EC加盟国全域でワクチネーションが行われ成果をあげている。本疾病は、数年以内に絶滅することが出来るものと期待されている。

(通訳の原稿を基に事務局が要約した。なお、オランダの養豚産業の概況は、*Pig Production in Holland: AGRI-HOLLAND*, 33, 6-11(1992)の全訳が、畜産の研究, 47, 602-606(1993)に掲載されている)

(第44回日本豚病研究会発表)

住所：〒106 東京都港区麻布十番1-5-26
ストークアザブ十番304